

自分の考えを積極的に英語で表現しようとする 生徒の育成を目指した指導の工夫

- 音声表現の繰り返し活動を通して -

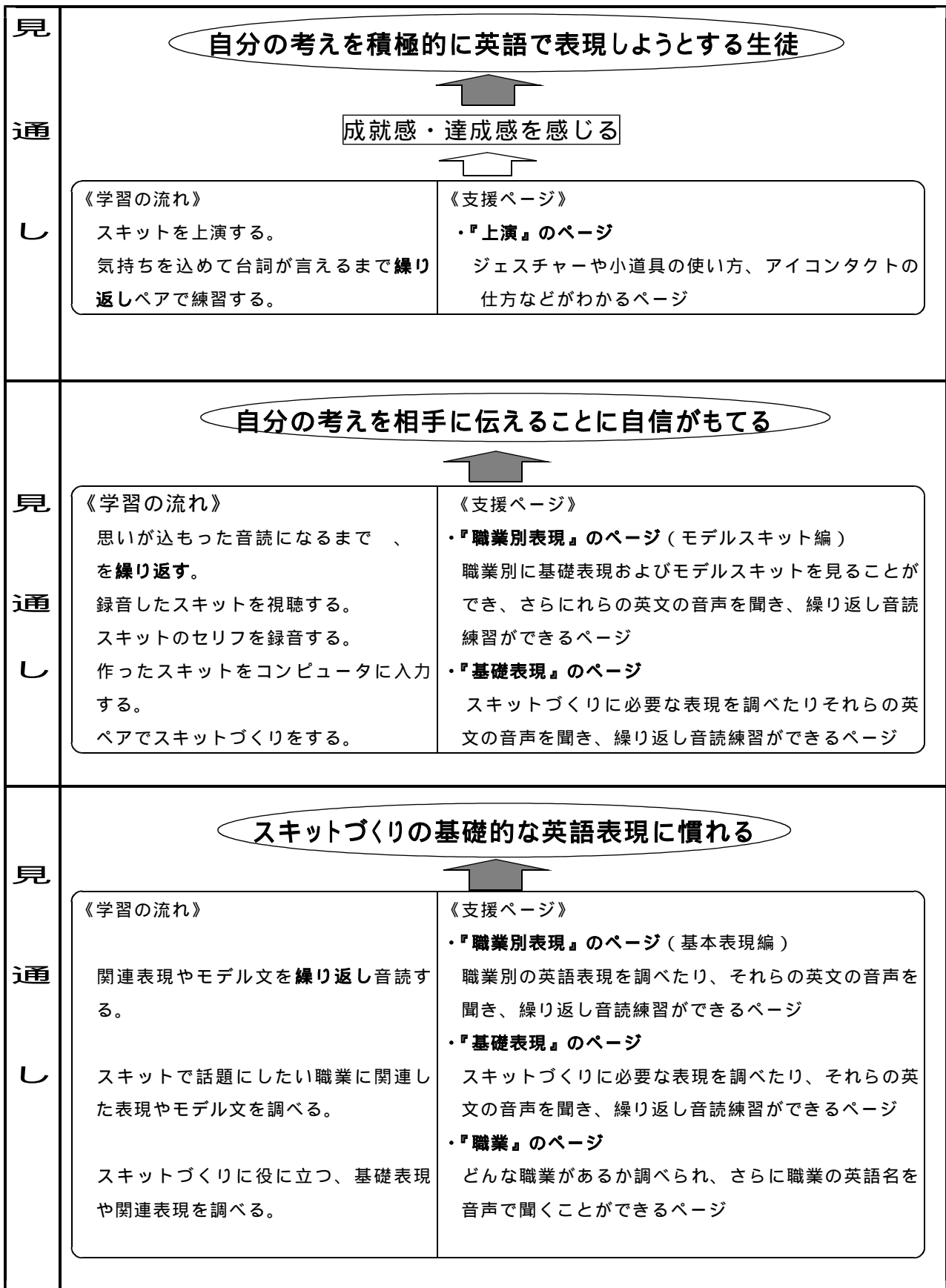
特別研修員 田部井 繁巳 (明和町立明和中学校)

資料編

目次

| | | |
|---|-----------------------|-----|
| 1 | 全体構想図 | 260 |
| 2 | 評価規準 | 261 |
| 3 | 指導計画 | 262 |
| 4 | 支援ページの仕組み | 264 |
| 5 | 指導案 | 267 |
| 6 | ワークシート、自己評価カード、生徒の作品等 | 274 |

1 全体構想図



2 評価規準

| | ア．コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 | イ．表現の能力 | ウ．理解の能力 | エ．言語や文化についての 知識・理解 |
|------|--|--|---|---|
| 聞くこと | <p>(言語活動への取組) 自作のスキットを真剣に何 度も繰り返し聞いている。</p> <p>(コミュニケーションの持続) 興味をもって他のペアのオ リジナルスキットを聞いて、 理解できないところがあっ ても推測し聞こうとしている。</p> | / | <p>(適切な聞取り) 他のペアの発表を聞いて その内容を聞き取ることが できる。</p> | <p>(言語についての知識) 既習の言語材料について の知識を身に付けている。</p> <p>(文化についての理解) ものの見方や考え方の違 いがわかる。</p> |
| 話すこと | <p>(言語活動への取組) 会話らしくなるように、学 習した表現を使い、ペアで協 力し、スキットを実演しよ うとしている。</p> <p>(コミュニケーションの持続) 途中でスキットが途切れて しまった時に、つなぎの言葉 やジェスチャーを用いて会話 を続けようとしている。</p> | <p>(正確な発音) 発音、アクセントに気を つけて、話そうとすること を聞き手に正確に伝えるこ とができる。</p> <p>(適切な発話) 自分の思いが効果的に伝 わるように、話す速さや声 の大きさを工夫している。</p> | / | <p>(言語についての知識) 場面や状況に応じた強勢 やイントネーションの違い を理解している。</p> |
| 読むこと | <p>(言語活動への取組) 基本表現、モデルスキット の練習では、関心をもって音 読練習をしている。</p> <p>(コミュニケーションの持続) オリジナルスキットの練習 では友達と協力して、音読 練習をしている。</p> | <p>(正確な発音) 正しい強勢や区切り、イ ントネーションに気を付け て音読している。</p> <p>(適切な発話) 場面や心情に応じた音読 練習ができる。</p> | <p>(適切な読取り) 支援ページの基本表現、 慣用表現及びモデルスキット を参考にして色々な表現 に気付き、読み取ることが できる。</p> | <p>(言語についての知識) 支援ページの基本表現、 慣用表現及びモデルスキット を正しく発音する知識があ る。</p> |
| 書くこと | <p>(言語活動への取組) 自分達の思いを込めオリジ ナルスキットを書こうとして いる。</p> <p>(コミュニケーションの持続) よりよいスキットになるよ うにペアで話し合い、別の語 句や表現で言い換えるなど英 文を検討しあっている。</p> | <p>(正確な筆記) モデルスキットの英文を 用い、オリジナルスキット を文法に従って正確に書く ことができる。</p> <p>(適切な筆記) 自分たちの思いを込めた 英文をつなぎや構成を考 えて書くことができる。</p> | / | <p>(言語についての知識) 場面や状況にふさわしい 表現を知っている。</p> |

3 指導計画(全7時間計画)

| 過程 | 時間 | ねらい()と学習活動 【見通し】 | 支援及び指導上の留意点 | 評価項目 【評価規準との関連】、(B): おおむね満足、(A): 十分満足、(評価方法) |
|-----------------------|----|---|--|---|
| つ か む 過 程 | 2 | <p>「私の夢というテーマで対話文をつくろう」という学習の目的や内容を知り、ペアごとに基礎表現や関連表現を調べ、音読練習をすることができる。</p> <p>・「私の夢というテーマでスキットをつくろう」という学習の課題の目的や内容を知る。</p> <p>・友達とペアをつくる。</p> | <p>・ALTとJETがモデルとして、将来の夢をテーマとしたスキットを絵や写真で示しながら上演し、英語で表現する楽しさを伝えることで、活動に意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>・興味・関心及び英語表現力も考慮に入れ、スキット作成が効率よく行えるようにする。</p> | |
| | | <p>スキットづくりに必要な基礎表現・慣用表現を知り音声表現の工夫ができる。</p> <p>・ペアごとに基礎表現や慣用表現を調べ、音読練習をする活動を繰り返し行なう。</p> <p>・モデルスキットで音声表現の工夫をする活動を繰り返し行なう。</p> <p>モデルスキットや関連表現及び慣用表現を参考にスキットをつくることができる。</p> <p>・ペアでスキットの内容を考える。 【見通し1】</p> | <p>・『基礎表現』のページを活用し、基礎表現や関連表現を調べたり、音読練習をすることができるようにする。</p> <p>・机間指導をし、アドバイスし、正しい発音、アクセント、文の強勢や区切り、イントネーションができるようにする。</p> <p>・学習した表現を考えながら、スキットを考えるように助言する。</p> <p>・最初から英語で考えるのが困難なペアには、日本語で最初は考えるように助言する。</p> | <p>・ペアで協力し、基本表現や慣用表現を調べたり、発音、アクセントに気を付けて繰り返し練習している。 【アの、・イの・エの】</p> <p>(B)発音、アクセントに気を付けて音読できる。</p> <p>(A)正確な発音、アクセントができる。 (学習活動の観察、自己評価カード)</p> <p>・モデルスキットを文の強勢や区切り、イントネーションに気をつけて音読している。 【イの】</p> <p>(B)つまることなく音読できる。</p> <p>(A)気持ちを込めて音読できる。 (学習活動の観察、自己評価カード)</p> |
| 追 究 の 過 | 1 | <p>・対話文の使用場面を考える。</p> <p>ペアオリジナルスキットを作成することができる。</p> <p>・基礎表現、慣用表現及びモデルスキットを参考にワークシートを活用しオリジナルスキットを作成する。</p> | <p>・『基礎表現』のページ及び『職業別表現』のページを活用し、スキットを作成できるようにする。</p> <p>・書けない生徒には支援ページより表現を選び、一部を変えて自分が伝えたい内容を表現してよいことを伝える。</p> | <p>・不定詞や動名詞を使い、自分達の気持ちを込めて意欲的にスキットをつくることができる。 【アの・イの、・エの、】</p> <p>(B)正しい英文にすることができる。</p> <p>(A)色々な表現を効果的に取り入れてスキットを作成している。 (スキットづくりのワークシート)</p> |
| | | <p>作成した対話文をコンピュータに入力し、音声を録音する。</p> <p>・作成したスキットをコンピュータに入力する。</p> <p>・対話文の音読練習をした後、ス</p> | <p>・伝えたい内容や気持ちを明確にし、自分達の発表のキーセンテンスやキーワードを意識して練習することにより、強勢や抑揚などを工夫するようにする。</p> | <p>・自分達の作ったスキットを繰り返し聞いて、スキットのキーワードを意識し音読練習することにより、強勢や抑揚などの工夫ができる。 【アの】</p> <p>(B)聞き手に分かるように音読できる。</p> |

| | | | |
|------------------------------|---|--|---|
| <p>程</p> | <p>2</p> <p>キットを録音し、文に貼り付ける。</p> <p>対話文の録音・視聴を繰り返し音声表現の工夫をすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来上がったスキットを視聴する。 ・音声表現の改善点を考え、音読練習をする。 ・再び音声を録音する。 ・視聴 練習 録音を繰り返し行ない、音声表現を工夫する。 <p>【見通し2】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・音声表現のよい点を取り上げることで、繰り返し修正を加え、自分の思いを効果的に伝えられるように工夫できるようにする。 ・単語の発音、強弱、文の抑揚に気をつけて視聴するよう促すことで、よりよい音声表現の工夫ができるようにする。 ・ペアで協力して、活動できるように励ます。 ・違うファイル名で保存するよう注意を促し、以前に録音したものと聞き比べられるようにする。 | <p>(A)自分の思いを込めて音読できる。</p> <p>(スキットの作品)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを効果的に伝えられるようにペアで話し合い協力して、話す速さや強勢や抑揚を工夫している。 <p>【アの 、イの 】</p> <p>(B)ペアで協力し工夫している。</p> <p>(A)ペアで協力し、効果的な工夫点を見出ししている。(スキットの作品)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じた音声の違いがわかる。 <p>【イの 】</p> <p>(B)場面に応じた文の強勢や抑揚の違いがわかる。</p> <p>(A)場面に応じた文の強勢や抑揚に気付き実演している。</p> <p>(スキットの作品、自己評価カード)</p> |
| <p>まとめ る 過 程</p> | <p>スキットの上演会に向けて音声表現を工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会に向けて、ペアで自分達の思いが伝わる工夫をしながらスキットの繰り返し練習をする。 ・ペアでスキットを発表することができる。 ・ジェスチャーや小道具を使いながらスキットの発表会をする。 ・他のペアのスキットを聞き、感想を書く。 <p>【見通し3】</p> <p>活動を振り返り、自己課題が見える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の話を聞く。 ・自己評価カード、相互評価カードに記入をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・『上演のページ』を活用し、どのように英文を言ったら相手に効果的に伝わるか、また効果的なジェスチャーの使い方がわかるようにする。 ・ジェスチャーを積極的に使うことで、少ない語彙を補うようにするよう助言する。 ・他のペアの発表をよく聞き、参考になる表現や感じたことをメモに取れるようワークシートを工夫する。 ・音声表現に関わる自己の課題を把握できるように、聞き手に感想を発表させたり、活動の様子をビデオに録画したものを視聴させたりして、オリジナルスキットの内容が正しく伝わったかを振り返ることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・会話らしくなるように自分の思いをより効果的に伝えたり、会話を持続させるためにジェスチャーを積極的に使いスキットを演じている。 <p>【アの 、 、エの 】</p> <p>(B)場面に合った表現を用いてスキットを演じようとしている。</p> <p>(A)場面に合った表現をペアで工夫し、スキットを演じている。</p> <p>(発表、自己評価カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のペアの発表を聞いて、その内容を理解でき、色々な表現に気付くことができる。 <p>【アの ・ウの 、 エの 】</p> <p>(B)他のペアの発表を聞いてその内容を理解できる。</p> <p>(A)他のペアの発表を聞いて、その内容や使われている効果的な表現を理解している。</p> <p>(学習活動の観察、相互評価カード)</p> |

4 支援ページの仕組み

プレゼンテーションソフトのパワーポイントを使用し以下の4つのページとモデルスキットを用意した。

『職業』のページ

『基礎表現』のページ

『職業別表現』のページ

『上演』のページ



『職業』のページ

『基礎表現』のページ

『モデルスキット』

farmer(農家)

- 私は戸外で働くのが好きです。
I like to work outside.
- 私は自然な食べ物栽培したい。
I want to grow natural food.
- 私は世界一の果物を育てたい。
I want to grow the best fruit in the world.
- 私の父も農家です。
My father is also a farmer.

クリックしてみよう

(基本表現編)

baker(パン屋)

A: What do you want to be in the future?
B: I want to be a baker.
A: Why do you want to be a baker?
B: To bake delicious bread.
My girl friend like to eat bread at breakfast.
A: I see.
I don't know you have a girl friend.
B: Her name is Hikaru Utada.
A: I got it.

(モデルスキット編)

『職業別表現』のページ

夢についてのスキットを
考えよう

色々な職業 基本表現 モデルスキット

クリックして支援ページへ

職業別モデルスキット

画像を見る 実演のコツ

見たい所をクリックしてみよう

メニュー画面



画像を見る

実演のコツ

- まずは大きな声で演じよう。
- できるだけ相手の目を見て会話をしよう
- ジェスチャーを使い、自分の気持ちを伝えよう。
- セリフをできるだけ覚えよう。
- 一言言いたいところは、大きな声でゆっくりと。
- 道具や小物を効果的に使おう。
- 単語の発音、アクセント、文のイントネーションにも気を付けよう。

実演のコツ


『上演の』ページ

(1) 『職業別表現』のページについて

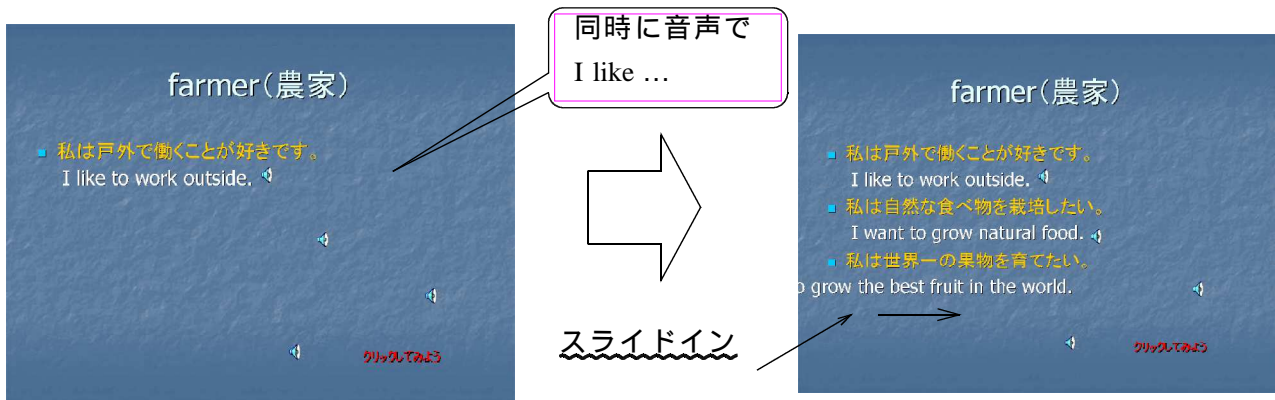
生徒の実態に合わせ以下に示すような 16 種類の職業について、それぞれ基本表現編とモデルスキット編の二種類の支援ページを用意した。

writer (作家), teacher (先生), scientist (科学者), programmer (プログラマー), ~ player (~の選手)
pilot (パイロット), lawyer (弁護士), farmer (農家), doctor (医者), cook (料理人), actor (俳優)
comedian (コメディアン), carpenter (大工), baker (パン屋), athlete (アスリート)

farmer(農家)のページ(例)

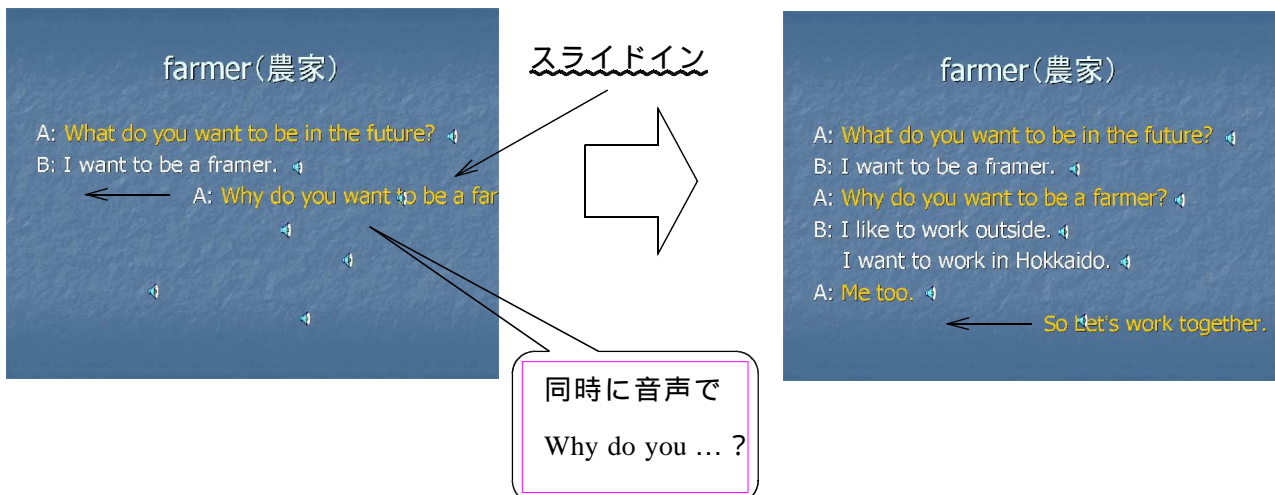
ページをクリックすると英文がスライドインし、同時にその英文の音声が出るように工夫した。また、 をクリックすると何度も繰り返し英語の音声を聞くことができるようにした。

(基本表現編)



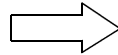
クリックすると

(モデルスキット編)

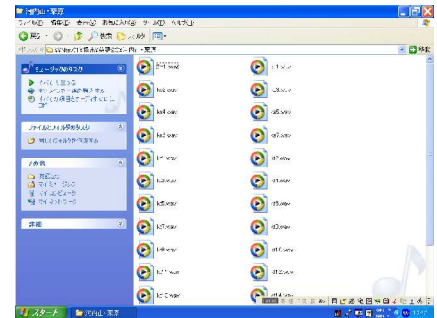


(2) 音声表現の録音・視聴の仕組み

スキットの録音・視聴の際には、サウンドレコーダを使用し、一文ずつ録音しファイルに名前を付けて保存した。



録音して保存したファイル（例）



5 指導案

英語科学習指導案

平成 16 年 10 月 27 日 (木)

2 年 C 組 (男子 19 名、女子 19 名、計 38 人)

指導者 田部井 繁巳

1 時間目

(1) 本時のねらい

「私の夢というテーマで対話文をつくろう」という学習の目的や内容を知り、ペアごとに基礎表現や関連表現を調べ、音読練習をすることができる。

(2) 準備 CD、自己評価カード、支援ページ

(3) 本時の展開

| 学 習 活 動 | 学習活動への支援・留意点 | 形態 | 評 価 項 目 |
|---|---|----|--|
| 1. warming up ・英語で挨拶をする。 ・今月の歌を聞く。 ディクテーション (5分) | 全体で挨拶した後、英語の歌を聞き、英語を学習する雰囲気を作る。 ディクテーションで、不定詞の部分を書かせることで、不定詞も復習をする。 | 一斉 | |
| 2. 「私の夢というテーマで対話文をつくろう」という学習の目的や内容を知り、学習の見通しを立てる。 (5分) | 活動に意欲的に取り組めるよう ALT と JET がモデルとして、夢をテーマとしたスキットを絵や写真を使いながら上演し、英語で表現する楽しさを伝え、内容を確認する。 | 一斉 | ・スキットづくりの活動の内容を理解し、興味をもって取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】 (観察) |
| 3. スキットを一緒につくる相手とペアをつくる。 (5分) 4. スキットづくりに役立つ基礎表現や関連表現を調べる。 (15分) 『基礎表現』のページ | ・ペアを作るとき、英作文の得意・不得意、コンピュータ操作の得意・不得意を考慮に入れペアを決められるように、配慮する。 パワーポイントを利用し、関連語句、基礎表現、関連表現、つなぎの表現を調べられる支援ページを用意し、生徒の能力に応じて調べられるように工夫する。 | ペア | ・スキットづくりに必要な基礎表現や関連表現を積極的に調べようとしている。 【関心・意欲・態度】 (観察) |
| 5. 基礎表現及び関連表現の音読練習をする。 (15分) 『基礎表現』のページ | ・コンピュータの操作でマウスをクリックすると自動的に音声流れるように工夫する。 発音、アクセントに気を付けるよう助言する。 | ペア | ・基礎表現や関連表現の発音、アクセントに気をつけて英語を言おうとしている。 【アの、イの エの】 (観察) |
| 6. 本日のまとめをする。 (5分) 自己評価カード | 本時の学習の内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。 | 一斉 | |

英語科学習指導案

平成 16 年 10 月 27 日(木)

2 年 C 組(男子 19 名、女子 19 名、計 38 人)

指導者 田部井 繁巳

2 時間目

(1) 本時のねらい

モデルスキットや関連表現及び慣用表現を参考に日本語でスキットをつくることができる。

(2) 準備 ワークシート、自己評価カード、支援ページ

(3) 本時の展開

| 学 習 活 動 | 学習活動への支援・留意点 | 形態 | 評 価 項 目 |
|---|---|----|--|
| 1 . warming up ・英語で挨拶をする。 ・教科書の本文を音読する。 (1 0 分) | ・これから作るスキットのことを考え、内容も考えながら音読するよう助言しながら行なう。 | 一斉 | ・教科書の本文を正確に音読している。 【エの】(観察) |
| 2 .モデルスキットを聞く。 3 .モデルスキットで、ペアで音読の練習をする。 (1 5 分) 『モデルスキット』 4 .モデルスキットを参考に対話文の内容を考える。 (2 0 分) 『基礎表現』のページ 『職業別表現』のページ | ・文の強勢や区切り、イントネーションなどに関わる指導を十分行なう。 ・初めから英語で考えられるペアは英語で書いてもよいと伝える。 スキットが考えられないペアにはモデルスキットの一部を変えてオリジナルスキットを考えるように助言する。 支援ページを参考にするよう助言する。 | ペア | ・モデルスキットの英文を注意深く聞き参考にしようとしている。 【アの】(観察) ・文の強勢や区切り、イントネーションに気をつけて意欲的に音読している。 【イの】(観察) ・自分達の思いを込めながらスキットを書こうとしている。 【アの】(観察) |
| 5 . 本時のまとめをする。 (5 分) 自己評価カード | 自己評価をし、本日の授業を振り返る。さらに、内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。 | 一斉 | |

英語科学習指導案

平成 16 年 11 月 1 日 (月)

2 年 C 組 (男子 19 名、女子 19 名、計 38 人)

指導者 田部井 繁巳

3 時間目

(1) 本時のねらい

「私の夢」というテーマで対話文をつくることができる。

(2) 準備 ワークシート、自己評価カード、支援ページ

(3) 本時の展開

| 学 習 活 動 | 学習活動への支援・留意点 | 形態 | 評 価 項 目 |
|---|---|----|---|
| 1 . warming up ・英語で挨拶をする。 ・今月の歌を口ずさむ。 (5 分) | 全体で挨拶した後、英語の歌を歌い、英語を学習する雰囲気を作る。 | 一斉 | |
| 2 . 「私の夢」というテーマで対話文をつくる。 (3 5 分) 『基礎表現』のページ 『職業別表現』のページ | ・自分達の言いたいことをまとめるため、『基礎表現』及び『職業別表現』のページを参考に、書けない生徒には自分の言いたい内容に近い表現を選ぶように助言する。 スキットが考えられないペアにはモデルスキットの一部を変えてオリジナルスキットを考えるように助言する。 支援ページを参考にしよう助言する。 | ペア | ・自分達の意見を入れて正しい英文で、スキットをつくることができる。 【アの ・イの、 エの、】 |
| 3 . 出来上がった対話文を音読練習する。(5 分) | 自信をもって、大きな声で音読できるよう机間指導を行なう。 | | ・作った対話文を友達と協力して、大きな声で音読することができる。 【アの】 |
| 4 . 本時のまとめをする。 (5 分) ・自己評価カード を記入する。 | 本時の学習の内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。 | 一斉 | |

英語科学習指導案

平成 16 年 11 月 4 日 (木)

2 年 C 組 (男子 19 名、女子 19 名、計 38 人)

指導者 田部井 繁巳

4 時間目

(1) 本時のねらい

作成した対話文をコンピュータに入力し、音声を録音する。

(2) 準備 ワークシート、自己評価カード - 1、支援ページ

(3) 本時の展開

| 学 習 活 動 | 学習活動への支援・留意点 | 形態 | 評 価 項 目 |
|--|--|----|--|
| 1 . warming up ・英語で挨拶をする。 ・今月の歌を口ずさむ。 (5 分) | 全体で挨拶した後、英語の歌を歌い、英語を学習する雰囲気を作る。 | 一斉 | |
| 2 . ペアで作成した対話文をコンピュータに入力する。 | ペアで協力して入力できるよう座席の配置を配慮する。 ・入力はペアで協力するように投げかけ、ペアのどちらかのみが行なうことのないようにする。 | ペア | ・意欲的にコンピュータに英文を入力しているか。 【関心・意欲・態度】 (観察) |
| 3 . 対話文の音読練習をする。 | ・伝えたい内容や気持ちを明確にし、自分達の発表のキーセンテンスやキーワードを意識して練習することにより、強勢や抑揚などを工夫できるようにする。 | | ・キーセンテンスやキーワードを意識して練習することにより、強勢や抑揚などを工夫できる。 【アの、イの】 (観察) |
| 4 . 対話文を録音する。 (4 0 分) | ・支援ページを参考に録音できるように工夫する。 | | |
| 5 . 本時のまとめをする。 (5 分) ・自己評価カード - 1 を記入する。 | 本時の学習の内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。 | 一斉 | |

英語科学習指導案

平成 16 年 11 月 9 日 (火)

2 年 C 組 (男子 19 名、女子 19 名、計 38 人)

指導者 田部井 繁巳

5 時間目

(1) 本時のねらい

対話文の録音・視聴を繰り返し音声表現の工夫をすることができる。

(2) 準備 ワークシート、自己評価カード - 2、支援ページ

(3) 本時の展開

| 学 習 活 動 | 学習活動への支援・留意点 | 形態 | 評 価 項 目 |
|---|---|----|---|
| 1 . warming up ・英語で挨拶をする。 (5 分) | 全体で挨拶した後、英語で簡単な質問をし、英語を学習する雰囲気を作る。 | 一斉 | |
| 2 . 録音した対話文を、対話文に貼り付ける。 3 . 貼り付けた対話文を視聴する。 4 . 工夫できる所を改良し録音をする。 視聴 練習 録音を繰り返し音声表現を工夫する。 (4 0 分) | コンピュータの操作に迷った時は、支援ページを参考にできるよう助言する。 ・何度も繰り返し聞くように助言する。 さらに改善できるようモデルスキットと聞き比べられるようにする。 A L T も机間指導をし発音、アクセント、抑揚等を指導する。 ・繰り返し修正を加え、自分の思いを効果的に伝えられるように工夫をするよう伝える。 | ペア | ・作ったスキットを真剣に聞き、工夫できる箇所を探そうとしている。 【アの、イの】 (観 察) ・自分の思いを効果的に伝えられるように工夫している。 【イの】 (作 品) |
| 5 . 本時のまとめをする。 (5 分) ・自己評価カード - 2 を記入する。 | 本時の学習の内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。 | 一斉 | |

英語科学習指導案

平成 16 年 11 月 12 日 (木)

2 年 C 組 (男子 19 名、女子 19 名、計 38 人)

指導者 田部井 繁巳

6 時間目

(1) 本時のねらい

対話文の録音・視聴を繰り返し音声表現の工夫をすることができる。

(2) 準備 ワークシート、自己評価カード - 2、支援ページ

(3) 本時の展開

| 学 習 活 動 | 学習活動への支援・留意点 | 形態 | 評 価 項 目 |
|--|---|----|--|
| 1 . warming up ・英語で挨拶をする。 (5 分) | 全体で挨拶した後、英語で簡単な質問をし、英語を学習する雰囲気を作る。 | 一斉 | |
| 2 . 録音した対話文を、対話文に貼り付ける。 3 . 貼り付けた対話文を視聴する。 4 . 工夫できる所を改良し録音をする。 視聴 練習 録音を繰り返し音声表現を工夫する。 (2 0 分) | コンピュータの操作に迷った時は、支援ページを参考にできるよう助言する。 ・何度も繰り返し聞くように助言する。 さらに改善できるようモデルスキットと聞き比べられるようにする。 A L T も机間指導をし発音、アクセント、抑揚等を指導する。 | ペア | ・作ったスキットを真剣に聞き、工夫できる箇所を探そうとしている。 【アの、イの】 (観 察) |
| 5 . 上演の準備をする。 ジェスチャーの工夫 小道具の準備(2 0 分) 『上演』のページ | ・繰り返し修正を加え、自分の思いを効果的に伝えられるように工夫をするよう伝える。 | | ・自分の思いを効果的に伝えられるように工夫している。 【イの】 (作 品) |
| 6 . 本時のまとめをする。 (5 分) ・自己評価カード - 2 を記入する。 | 本時の学習の内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。 | 一斉 | |

英語科学習指導案

平成 16 年 11 月 13 日 (金)

2 年 C 組 (男子 19 名、女子 19 名、計 38 人)

指導者 田部井 繁巳

7 時間目

(1) 本時のねらい

「私の夢」をテーマに作成し音声表現を工夫した、スキットを発表することができる。

(2) 準備 自己評価カード、評価シート、プロジェクター

(3) 本時の展開

| 学 習 活 動 | 学習活動への支援・留意点 | 形態 | 評 価 項 目 |
|--|---|----|---|
| 1 . warming up ・英語であいさつをする。 ・モデルスキットを見る。 (5 分) | これから行なうスキットの発表の参考となるよう A L T とスキットを実演する。 | 一斉 | |
| 2 . ペアで作成した対話文を発表する。 (4 0 分) ・自己・相互評価カードを記入する。 | ・ジェスチャーを積極的に使うことにより、少ない語彙を補うようにするよう助言をする。 発表を聞いて、発表の内容をしっかりと聞けるよう、ワークシートを工夫する。 | ペア | ・ジェスチャーを積極的に使い会話らしくなるよう実演しようとしている。 【ア、・エの】 (観察) ・発表を聞いてその内容を理解できる。 【アの・ウの、 ・エの】 (評価シート) |
| 3 . 本時のまとめをする。 (5 分) ・教師の話聞く。 ・自己評価カードを記入する | ・音声表現に関わる自己の課題を把握できるように、発表後に聞き手に感想を発表させたり、活動の様子をビデオに録画したものを視聴させたりして、オリジナルなスキットの内容が正しく伝わったかを振り返ることができるようにする。 | 個別 | ・感想及び自己を振り返り自己課題が書ける。 【言語や文化に関する知識・理解】 (自己評価カード) |

6 ワークシート、自己評価カード及び生徒作品等

(1) ワークシート

自分の夢を英語で語ろう (スキットづくり)

2 - _____ Name _____

(TASK 1) 下のパターンを参考にペアでスキット (対話文) を作ってみよう。

A: 相手の夢を尋ねよう。

B: 自分の夢を答えよう。

A: 相手に何故その夢をもっているのか尋ねよう。

B: 理由を答えよう。 逆に相手の夢を聞こう。

A: 自分の夢を語ろう。

B: 理由を聞こう。

⋮

A: 最後に一言。

B: 最後に一言。

【できればおもしろく、落ちなどを入れるとよい。】

(NOTICE)

- ・ 支援ページを参考にしよう。
- ・ 辞書を積極的に使おう。
- ・ 必ずペアで協力して行なおう。

My Dream

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

_____ : _____

Written by _____ (-)

(2) 自己評価カード

自己評価カード

2年__組__番 氏名_____

1. 基本表現を繰り返し音読できましたか。
ア．できた イ．だいたいできた ウ．できなかった
2. スキットづくりに必要な慣用表現が分かりましたか。
ア．よく分かった イ．だいたい分かった ウ．分からなかった
3. 支援ページを使って発音は上手くなったと思いますか。
ア．思う イ．少し思う ウ．全然思わない
4. 単語のアクセントや文のイントネーションに気をつけて音読できましたか。
ア．できた イ．だいたいできた ウ．できなかった
5. 今日の授業の感想を書いて下さい。

自己評価カード

2年__組__番 氏名_____

1. ペアで協力し、不定詞を使ってスキットを作ることができましたか。
ア．できた イ．だいたいできた ウ．できなかった
2. 支援ページは役に立ちましたか。
ア．役に立った イ．少しは役に立った ウ．役に立たなかった
3. 今日の授業の感想を書いて下さい。

自己評価カード - 1

2年__組__番 氏名_____

1. 単語のアクセントや文のイントネーションに気をつけてスキットを何度も聞いて、録音することができましたか。

ア. できた イ. だいたいできた ウ. できなかった

() 回くらい繰り返して録音した。

2. 単語のアクセントや文のイントネーションに気をつけてスキットを練習することができましたか。

ア. できた イ. だいたいできた ウ. できなかった

3. 思いを込めて文を読むことができましたか。

ア. できた イ. だいたいできた ウ. できなかった

4. 今日の授業の感想を書いて下さい。

自己評価カード - 2

2年__組__番 氏名_____

1. 録音・視聴を繰り返すことで、英語らしく発音できるようになりましたか。

ア. できた イ. だいたいできた ウ. できなかった

() 回くらい繰り返して録音した。

2. 単語のアクセントや文のイントネーションに気をつけてスキットを練習することができましたか。

ア. できた イ. だいたいできた ウ. できなかった

3. 自分達の思いを込められるように工夫できましたか。

ア. できた イ. だいたいできた ウ. できなかった

4. 思ったように英文を読めるようになりましたか。

ア. なった イ. だいたい読めた ウ. 読めなかった

5. 今日の授業の感想を書いて下さい。

自己評価カード

2年___組___番 氏名_____

1. 自分達のスキットを実演できましたか。

ア. できた イ. だいたいできた ウ. できなかった

2. ジェスチャーか小道具が使えましたか。

ア. 両方使えた イ. ジェスチャーが使えた ウ. 小道具が使えた エ. 両方使えなかった

3. スキットを発表した感想を書いて下さい。

(スキットを実演して)

(友達のスィットを見て)

4. 聞き手に言いたいことが、伝わったと思いますか。

ア. 伝わったと思う イ. 少し伝わったと思う ウ. 全然伝わらなかったと思う

5. コンピュータを使ったスキットづくりをした感想を書いて下さい。

(3) 授業中の様子及び生徒のスキットの作品

授業中の様子

サウンドレコーダーを使っている様子



何度も録音している様子

スキット上演の様子



アイコンタクトをしながら

生徒作品例

A女のスキット生徒作品

My Dream

A : What are you going to be in the future?
 B : Well, I want to be a writer.
 A : Why do you want to be a writer?
 B : First, I like reading.
 : Second to read books gives us many thing.
 A : That's a good idea.
 B : How about you?
 A : I want to be a baker.
 : Can you guess? Why?
 B : Let me see! I don't know.
 A : I want to build houses made in bread.
 B : Wow! I want to eat that house.
 A : Well, Do you like bread?
 :

B男のスキット生徒作品

My Dream

Tom : What are you going to be in the future?
 Mary : Well, I want to be a writer.
 Tom : Why do you want to be a writer?
 Mary : First, I like novels.
 : Second, I like reading.
 Tom : You will be a good writer in the future.
 Mary : Thank you.
 : How about you, Tom?
 Tom : I want to be a programmer.
 : Can you guess? Why?
 Mary : Let me see! To get a lot of money?
 Tom : Yes. That's right.
 Mary : Really? Do you really want to be a programmer only for money?
 Tom : I'm sorry, I told a lie to you. I have other reason.
 : I want to rule people all over the world.
 Mary : Wow!
 : That's a good idea.
 Tom : Thank you.